

であった。根気よく採集を続けていると、思わぬ珍品に巡り合うものであり、大層元気づけられた。

最後になりましたが、クロトビサシガメ及びトゲサシガメについて、いろいろとご教示いただき、この報告をお奨めいただきました高橋寿郎氏に厚く感謝致します。

〔参考文献〕

- 北隆館発行 原色日本昆虫大図鑑Ⅲ
北隆館発行 日本昆虫図鑑
厚生閣発行 分類原色日本昆虫図鑑

西宮市上ヶ原山田町のトンボ

田 中 稔

私は、きべりはむし第12巻第1号に甲山の東南を流れる上ヶ原用水路のトンボを報告したが、今回は同じ甲山の東南の湿地に発生するトンボについて報告する。湿地は3ヶ所あり、1番上手にA湿地、B湿地、C湿地と続き、農業用の池、たんぼと続く。A湿地は、雑木のまばらな広い湿地で夏には水が完全になくなる。B湿地は、ススキがまばらな小さい湿地で夏でも水が少し残っている。C湿地は、葦が密生する沼で、中に入ると腰までズブズブといくような所で夏でも水は残っている。附近は、私と犬の散歩のコースで最盛期の6・7月には早朝の摂食飛翔、日中の羽化殻採集、夕方の摂食群飛を楽しめる所である。

オグマサナエ *Trigomphus ogumai* ASAHINA

24Ⅳ1983 羽化殻 2 B湿地

水面に浮かんでいたものを発見した。コンクリートの上で、日光浴をするようにとまっているのを見かける。

アオヤンマ *Aeschnophlebia longistigma* SELYS

12Ⅵ1982 羽化殻 ♂2 ♀7 C湿地

13Ⅵ1982 " ♂7 ♀14 "

19Ⅵ1982 " ♂2 "

20 VI 1982	羽化殻	♂ 1	C湿地
26 VI 1982	"	♂ 2 ♀ 1	"
11 VII 1982	"	♂ 2 ♀ 2	"
17 VII 1982	"	♂ 3 ♀ 4	"
25 VII 1982	"	♂ 7 ♀ 7	"
28 VII 1982	"	♂ 1 ♀ 1	"
29 VII 1982	"	♂ 9 ♀ 4	"

1982年7月4日には、羽化殻を採集しているそばで11時30分頃に本種の産卵を、同年7月17日には、雨上りの午後3時頃に羽化中の2♀を観察している。本種の摂食行動は特異で、1984年8月4日の観察では、葦の茎にすがるように上下移動飛翔していたので、始めは産卵かと思ったが他にも同じ事をする個体があったので、近くに寄ってよく見ると尾も曲げていなかったもので、茎にとまっている虫を摂食しているものと思う。本種は他のヤンマとちがって高飛することはなく、稲、雑草の上をかすめるようにして低く飛ぶのが特徴である。

ネアカヨシヤンマ *Aeschnophlebia anisoptera* SELYS

13 VII 1979	羽化殻	♀ 1	C湿地
6 VI 1982	"	♂ 3	"
13 VI 1982	"	♂ 2	B湿地
26 VI 1982	"	♀ 1	C湿地
4 VII 1982	"	♀ 1	"
11 VII 1982	"	♂ 2 ♀ 1	"
17 VII 1982	"	♂ 2 ♀ 1	"
25 VII 1982	"	♀ 1	"
29 VII 1982	"	♀ 3	B湿地

カトリヤンマ *Gynacantha japonica* BARTENEF

まだ羽化殻を発見していないが、日没後かなり暗くなってからアスファルトの上を低く飛ぶ個体をよく見る。私は、1981年8月12日、淡路島の浦でたんぼの稲に羽化殻を発見したことがある。

ヤブヤンマ *Polycanthagyna melanictera* SELYS

13 VI 1982	羽化殻	♂ 1	C湿地
------------	-----	-----	-----

本種の発生場所は他にあると思うが、まだ発見できないでいる。夕方に他のヤンマに混って高飛するのをよく見る。1976年、1977年は特に多かった。1985年7月15日の10時頃に、自宅の池のそばの湿ったブロックに、垂直にとまり尾を曲げて産卵の姿勢をとった個体を観察したことがある。

マルタンヤンマ *Anaciaeschna martini* SELYS

17 VII 1982 羽化殻 2 ♀ 1 C湿地

29 VII 1982 // 1 ♀ 1 //

成虫はきべりはむし第8巻第1号に報告したが、その後は採集、目撃もない。

ギンヤンマ *Anax parthenope* BRAUER

個体数は多いが、A, B, C, 湿地には羽化殻が見られない。発生すると見られる農業用の池は、立入禁止のため羽化殻を採集していない。

クロスジギンヤンマ *Anax nigrofasciatus* OGUMA

13 VI 1982 羽化殻 ♂ 1 B湿地

6 V 1984 // ♂ 3 ♀ 5 //

B, C湿地を、パトロールするのをよく見るが♀はまだ見たことがない。

ハラビロトンボ *Lyriothemis pachygastra* SELYS

13 V 1984 羽化殻 12 A湿地

// // 2 B湿地

本種の個体数は多く、A, B, C湿地の他に雨の降った時だけ水のある湿地にも発生しているようである。

オオシオカラトンボ *Orthetrum triangulare* SELYS

C湿地に、成虫、羽化殻の個体数が多い。

ヨツボシトンボ *Libellula quadrimaculata* SCHIDT

羽化殻は発見していないが、B, C湿地に縄張り、交尾、産卵を観察している。

○参考文献 石田昇三 原色日本昆虫生態図鑑Ⅱトンボ編 保育社

兵庫県未記録のコメツキムシ

岸 井 尚

兵庫県下からのコメツキムシについては筆者(1984)が本誌上(Vol.12, No. 1, 2)に高橋寿郎氏の蒐集標本を中心に、これまでの記録を含めてまとめたものが126種あるが、その後、有本久之氏(1985)がやはり本誌上(Vol. 13, No. 1)で5種追加した。また筆者は勤務校の研究論集(Bull Heian High Sch., 29, 1985:28~29)に新種*Actenicerus ashiaka*を記載した際、そのパラタイプ標本として1雌を明石産(1970年5月5日、高橋寿郎氏採集)で記録